

ひとをつなぐ、未来につなぐ。

広報

おおつち

Otsuchi

2021.5.6

5

May

No. 689



特集

大槌高校生が 「魅せる」大槌

大槌町コミュニティ通信
協働の地域づくりを

町の当初予算
「地域人材コネクション予算」

今月の大槌びと → 詳しくは裏表紙へ

菊地本谷	香花	さん (右)
江紗羅	さん (中央)	
澤春妃	さん (左)	

大槌高校生が

「魅せる」大槌

大槌高校の魅力化推進事業の一つ、「はま留学」。

4月、第1期生となる本江紗羅さん^{もとえさら}が入学し、下宿しながら3年間の学校生活をスタートします。

小さい頃から自然が大好きだった本江さんは、昨年訪れた大槌で在校生が伝えてくれた、豊かな自然や人の温もりに魅力を感じ、入学を決めたと話します。ここでは、「はま留学」に関わった生徒や地域の人の言葉を通して、町の魅力に目を向けてみます。

魅力化を 生徒と地域で

生徒たちは自分なりのテーマを見つけ、
地域の人たちに学び、町の魅力を探索しています。



東京大学海洋研究所の協力による、「はま研究会」

地域での探究活動

大槌高校では、「大海を航る、大槌（ハンマー）を持つ」という合言葉に掲げ、大槌の地域性を生かした人材育成、学びの場を目指す「大槌高校魅力化プロジェクト」に取り組んでいます。生徒たちは、地域に入り込み、町の人たちと交流しながら自分の興味・関心のあるテーマを見つけ、探究する活動を行っています。

また、東京大学海洋研究所の協力の下、大槌の海に関する様々な事を学ぶ「はま研究会」や、ぼうさい甲子園（兵庫県などが主催）で三年連続入賞するなど高い評価を得る「復興研究会」など、生徒の主体的な活動によって、町の魅力や未来への展望を掘り起し、発信しています。

「はま留学」の取り組み

昨年度、全国から入学生を募集する「はま留学」がスタート。様々な背景を持つ生徒たちが共に学び、多様な個性あふれる学校を目指すこの取り組みでは、生徒たちが主体となって、



町や学校の魅力のPRを行ってきました。そして今年度、第1期生となる、本江紗羅さんを埼玉県川越市から迎えました。

地域の人たちがサポート

留学生を受け入れ、のびのびと学べる環境づくりを地域の人たちもサポートしています。留学生の下宿先となるタカマス民宿を営む中村康子さんは、大槌高校からの呼び掛けを受けた際、復興事業の宿泊客が落ち着いてきた今、地域のために協力できることがあればと考え話を聞いたと言います。「本江さんは活発でしっかりした子なので、あまり心配せず、家族のように見守っていきたい」と笑顔で話します。

地域の人たちに見守られながら、新1年生を含めた大槌高校生の活動が今年度もスタートします。生徒たちは自分たちの目線で地域の中にテーマを見つけ、探究し、発信していきます。それは時に地域に暮らす私たちへ新たな発見や気づきを与えてくれるきっかけにもなります。

おせっかいなお姉ちゃんのような気持ちで

卒業生が県外留学生の生活をサポート

大学卒業後、復興支援やゲストハウスの運営に携わった経験から、大槌に戻ってくる人や大槌で暮らしたい人を応援する仕事がしたいという気持ちを持っていました。今回「はま留学」の留学生支援員としてサポートできることがうれしいです。3年後にこの町に来てよかった、何か見つけられたと感じてもらうことが理想。学校生活を楽しみながら、この町で育っていない留学生の視点で気づいたことを町の人に直接伝えていってほしいと思います。



あずまや
東谷 いずみ さん
留学生支援員



(写真上) 蓬莱島を目の前に釣り体験
(写真下) 東京大学海洋研究所で大槌の海について体験学習

大槌高校 YouTubeチャンネルでは
PR動画を公開中です



留学生に届いた地元愛

地元高校生に案内してもらったオ

人に伝えたい魅力をこう語ります。「小さな町なので、中々言葉で表すのは難しいですが、好きな場所がたくさんあります。実際に足を運んでもらって、蓬莱島などの有名な場所や文化交流センターおしゃっちの様に人が集まる場所を見せたいです。オープンスクールの時も、浪板海岸でサーフィンをしている人たちを見に、花ホテルはまぎくへ案内しました」

オープンスクールについて、本江さんはとても楽しかったと話します。「川で虫や魚の名前を教えてくれたり、たくさん話しかけてくれたりして、とても面白い時間でした。こんなに地元を愛しているなんて、なかなかないと驚きました。私もこの中に入って、外の人を巻き込んでいきたいと思いました。」

三浦さんは、埼玉から初めてやって来た本江さんが1日目から、大槌高校に入るのを決めたと語ってくれたことがとてもうれしかったと言います。「進学先を探している中で、大

誇るべき地元高校生の姿

大槌の魅力発信に生き生きと取り組んできた在校生や、この町を新たな学びの場として選んでくれた県外留学生の言葉は、私たちが普段当たり前だと思っていた大槌の魅力に気づかせてくれます。そして、目を輝かせながら大槌の良さを語ってくれる地元高校生の姿こそ、何よりも誇るべき地域の魅力ではないでしょうか。大槌を愛する心を生徒たちに学びながら、改めて自分が暮らす町について思いを巡らせてみましょう。

小國さんも、「最初は時間がたくさんあるような気になるけれど、3年間はあるという間。後悔という文字がよぎらないように、がんばってほしいです」とエールを送ります。

地域を愛し、地域に愛されている生徒たち

オープンスクールでの生徒たちの姿を見ていると、こんなに町の魅力を語ることができるんだと驚かされます。誰かに言われているのではなく、データには見えない様な魅力をキラキラした表情で話しています。

大槌高校の生徒たちは、地域に愛されているし、地域を愛していると感じます。地域での、お互いの顔が見える距離感や、郷土芸能に慣れ親しんでいることが大きいのではないかと思います。そんな先輩や友達の中で、紗羅さんにはぜひのびのびと頑張ってもらいたいです。それは第1期生の特権でもあります。そして私も一緒に大槌のことを学んでいけたらと思っています。



きむら ゆうり さん
木村 有里 さん
1学年担任・復興研究会顧問



大高生が語る「まちの魅力」

留学生となった本江さんの心を動かしたのは、自分の町を愛し、誇らしげに語る先輩たちの姿でした。

三浦七夢さん(3年)



小國尚人さん(3年)

本江紗羅さん(1年)
インタビューは裏表紙へ

生徒主体のオープンスクール

「はま留学」の取り組みでは、遠方からの入学希望者が、学校や下宿先の見学、大槌町での暮らしを体験することに、高校生活や「はま留学」についての理解を深めるため、大槌町内や大槌高校を見学するオープンスクールを開催しています。このオープンスクールでは、在校生自身が自分たちの声で大槌の魅力を説明したり、希望者の中学生を案内したりしています。

昨年度行われたオープンスクールで案内役を務め、今年度入学した本江さんとも実際に接した小國尚人さん(3年)に、大槌の一番の魅力について聞くと、豊かな自然だと言います。もともと海が好きで、「はま研究会」の活動にも参加している小國さん。「海はもちろんですが、新山など山もきれいだし、沢で遊ぶことも楽しい。色んな生き物もたくさんいます」と目を輝かせます。

同じくオープンスクールに携わった三浦七夢さん(3年)は、県外の

大槌町教育委員会だより



育てよう魅力の花

大槌学園・吉里吉里学園入学式 78名の新1年生が誕生

4月7日(水)、町内の小中一貫教育校、大槌学園と吉里吉里学園でそれぞれ入学式が行われ、大槌学園61名、吉里吉里学園17名の新1年生が学園生活をスタートさせました。緊張した面持ちで入場した新入生たちは、一人ずつ名前を呼ばれると、大きな声で返事をし、しっかりとおじぎをしました。大槌学園では、学園長から「元気のいい挨拶」「早寝・早起き・朝ごはん」「交通事故に気をつける」の三つの約束をお話しされ、うなずきながら聞く姿が見られました。両学園とも入学式後にはホームルームを行い、元気に返事をしながら先生のお話に耳を傾けました。帰り支度の際は、どこか恥ずかしそうな顔つきで、友達や保護者と顔を見合わせながら、新しいランドセルや帽子を身につけていました。



大槌学園



吉里吉里学園



大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



大槌高校
ホームページでも
行事の様子を
発信しています！

祝 61名が入学しました！

4月9日(金)に入学式が行われ、昨年度より8名多い61名の新入生を迎えました。新1年生たちは、新しい制服に身を包み、緊張した面持ちで式に臨んでいました。新入生代表宣誓をした黒澤遥斗さんは、「校則を自分たちで議論し、検討していく過程でより良い学校づくりに携わっていきたい。そして、地域と関わる様々な授業や研究会を通して、大槌高校はもちろん大槌町全体も盛り上げていきたい。」と抱負を述べました。

今年度は「はま留学」の1期生として埼玉県から1名の留学生を迎えました。今年度も地域に愛される魅力的な学校づくりを目指して、生徒と教職員、地域の皆さんとともに取り組んでいきます！



【新1年生の出身中学校内訳】

大槌学園	38名
吉里吉里学園	6名
釜石東中学校	11名
釜石中学校	2名
甲子中学校	1名
山田中学校	1名
湯本中学校(花巻市)	1名
霞ヶ関東中学校(埼玉県川越市)	1名
合計	61名



4月12日(月)には、対面式や部活動紹介がありました。新入生を迎えての新年度スタートです！

新任の先生方の紹介

4月8日(木)に新任式が行われました。継枝斉校長先生をはじめ、7名の先生方を大槌高校にお迎えしましたので、皆さんにお知らせします。



校長 継枝 斉

このたびの定期人事異動により、7名の職員が4月1日に着任いたしました。ここ大槌で生徒たちの成長に寄り添えることに転入者一同大きな喜びを感じております。瀬戸前校長からは、大槌町の皆さんから本校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜っていると伺っておりますし、実際、各種報道等でもその様子を拝見させていただいております。昨年度の教育活動を継続・発展させ、また大槌を大切に、大槌と共にある学校、そして、地域の方々から愛される学校を目指していきたく存じます。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

新任の先生方：教諭 田中 貴広 (商業) 講師 菅沼 和子 (商業) 講師 竹内 美和 (保健体育)
講師 佐々木 健太 (国語) 講師 岩間 凌太 (英語) 魅力化推進員 小野寺 綾